

令和7年度病虫害発生予察情報 発生予報第4号(6月)

令和7年6月30日

発表：福島県病虫害防除所

注意が必要な病虫害

水稻	■ 斑点米カメムシ類 -②
果樹	■ 果樹共通：果樹カメムシ類（6月13日付け防除情報参考）-② ■ リンゴ：リンゴ褐斑病（6月30日付け防除情報参考）-② ■ モモ：モモハモグリガ-② ■ リンゴ・モモ：ハダニ類-②
野菜花き	■ 夏秋トマト：トマトキバガ（6月25日付け防除情報参考）、トマト黄化葉巻病（TYLCV）、トマトすすかび病-③ ■ キュウリ、キク、リンドウ：ハダニ類 -② ■ キュウリ、キク：アブラムシ類 -② ■ リンドウ：葉枯病 -② ■ 野菜花き共通：オオタバコガ（6月30日付け防除情報参考）-②

※ 上記の表に記載された病虫害は、下記の①～③に該当します。

注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病虫害

②「1 主な病虫害の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病虫害の中で特に懸念される病虫害

③「1 主な病虫害の発生予報」以外で、調査の結果、県全域的に発生が多く、問題になると判断した病虫害

1 主な病虫害の発生予報

(1) 普通作物

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稻	いもち病 (葉いもち)	全 域	平年並	平年並	天候予報（6月19日発表1か月予報）によると、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている(±)。	発生の早期発見、早期防除に努める。特に多肥田では発生しやすいため、注意する。 置苗は、葉いもちの発生源となるため、水田内に放置せず適切に処分する。
	紋枯病	全 域	平年並	やや多い	昨年の発生はやや多く、天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+)。	窒素肥料の多用をさける。 前年の発生が多かった場合は、薬剤散布を実施する。 気温が高いと上位葉鞘への伸展が早まるため、注意する。
	斑点米カメムシ類	全 域	—	やや多い	6月中下旬の畦畔での発生地点割合は平年より高く、天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+)。	畦畔や水田周辺のイネ科雑草の穂は斑点米カメムシ類の増殖源になるため、草刈りを励行し、イネの出穂10日前までに終了させる。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(—)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。



病虫害防除所
HPは
←こちらから



病虫害に関する
防除対策の
ページは
←こちらから

(2) 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全域	—	平年並	6月中旬の新梢葉での発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	
	褐斑病	全域	—	やや多い	6月中旬の発生ほ場割合は、果そう葉での発生ほ場割合は平年よりやや高く、新梢葉での発生ほ場割合は平年より高かった(+)。	梅雨期は二次感染を繰り返す恐れがあるため、発生が認められる園地では防除対策を徹底する。薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する(令和7年6月30日付け令和7年度病害虫防除情報(リンゴ褐斑病)参照)。
	黒星病	全域	—	平年並	6月中旬の新梢葉及び果実での発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。 薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。
	キンモンホソガ	全域	—	平年並	6月中旬の新梢葉被害の発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	
	アブラムシ類	全域	—	平年並	6月中旬の新梢寄生の発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	
	ハダニ類	全域	—	やや多い	6月中旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)。	要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。
モモ	灰星病	中通り	—	平年並	6月中旬の発生ほ場割合は、平年並(±)であった。	現在早生種の重要防除期であるので、灰星病防除剤を散布する。
	せん孔細菌病	中通り	—	やや少ない	6月中旬の新梢葉の発生ほ場割合は、平年よりやや少なかった(—)。	梅雨期は発病が急増するおそれがあるため、引き続き注意が必要である。 薬剤防除は、10日間隔で本病防除剤を使用する。その際、早生種は収穫前日数に十分注意する。 罹病部位は見つけしだい除去し、発生拡大が懸念される場合は速やかに袋かけを行う。

モモ	モモハモグリガ	中通り	—	やや多い	6月中旬の新梢葉被害の発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（＋）。	発生が多いほ場では、農作物病虫害防除指針や地域の防除暦を参考に防除を徹底する。本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意する。
	アブラムシ類	中通り	—	平年並	6月中旬の寄生新梢率は、平年並であった（±）。	
	ハダニ類	中通り	—	やや多い	6月中旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（＋）。	要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。
ナシ	黒星病	全 域	—	平年並	6月中旬の発生ほ場割合は、新梢葉、果実ともに平年並であった（±）。	本病に対する「幸水」果実の感受性は満開後 50～90 日頃に高まり、梅雨期と重なるため、今後の感染拡大には注意が必要である。 梅雨期に「幸水」果実への感染を防ぐ効果が高い薬剤は、カナメフロアブル 4,000 倍、スクレアフロアブル 3,000 倍及びミギワ 20 フロアブル 4,000 倍である（県病虫害防除指針参照）。薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。
	アブラムシ類	県北 県中・ 県南 浜通り	— — —	やや少ない やや少ない 平年並	中通り地方の6月中旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年よりやや低かったが（－）、浜通り地方では平年並であり、寄生程度が高いほ場があった（±）。	
	ハダニ類	全 域	—	平年並	6月中旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年並であった（±）。	要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。
果樹共通	カメムシ類	県北・会津・浜通り北部 県中・県南・浜通り南部	— —	やや多い 平年並	4月5半旬～6月4半旬のフェロモントラップにおける越冬世代の誘殺数は、県北・会津・浜通り北部で平年より多く（＋）、県中・県南・浜通り南部では平年並であった（±）。	6月中旬までフェロモントラップへの誘殺が続いている地点があるので、園地を観察し多数の飛来が見られる場合は、速やかに防除を行う（令和7年6月13日付け令和7年度病虫害防除情報（果樹カメムシ類）参照）。

注）予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

(3) 野菜花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏 秋 トマト（被覆栽培）	灰色かび病	全 域	－	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	発病葉は摘除し、防除を徹底する。 多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	葉かび病	全 域	－	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全 域	－	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	コナジラミ類	全 域	－	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、天候予報（仙台管区気象台6月19日発表）によると、向こう1ヶ月の期間の前半は、気温がかなり高いと予想されている（+）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 一部のほ場で寄生葉率の高いほ場が確認されており、トマト黄化葉巻病の発生も確認されている。薬剤による防除を徹底し、葉裏まで薬剤がしっかりとかかるように防除する。
夏 秋 キュウリ（露地栽培）	べと病	全 域	－	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、発生初期から防除を実施する。
	うどんこ病	全 域	－	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施する。
	炭疽病	全 域	－	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、複数地点で発生が確認されているため、今後注意が必要である。	発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施する。 排水対策の徹底、過湿防止、資材の消毒に努める。
	アブラムシ類	全 域	－	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、天候予報によると、向こう1ヶ月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている（+）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、すみやかに防除を実施する。 ウイルス感染株が発生している場合は、速やかに抜き取る。

夏 秋 キ ユ ウ リ (露地栽培)	ハダニ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった(±)が、天候予報によると、向こう1ヶ月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている(+)	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。薬剤抵抗性の発達が懸念されるため、異なる系統のローテーション散布を実施する。
キク(露地栽培)	白さび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。 品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。
	アブラムシ類	全 域	—	多い	発生ほ場割合は、平年より高かった(+)、天候予報によると、向こう1ヶ月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている(+)	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった(±)が、天候予報によると、向こう1か月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている(+)	気温が高くなると、急激に発生量が増えるため、低密度時から防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	—	やや多い	一部のほ場で、ケロイド症状が確認されているが、発生ほ場割合は、平年並であった(±)。天候予報によると、向こう1か月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている(+)	ほ場をよく観察し、葉裏まで薬剤がかかるように防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	上位葉での発生に注意し、低密度時から防除を実施する。
リンドウ	葉枯病	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)。一部ほ場では、中位葉以上での発生が確認されている。	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった(±)が、上位葉での寄生が確認されているため注意が必要である。天候予報によると、向こう1か月の期間の前半は、気温がかなり高くなると予想されている(+)	気温が高くなると、急激に発生量が増えるため、ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
	リンドウホソハマキ	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。

野菜・花き共通	タバコガ類	全域	-	やや多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高く（＋）、キクやトマトのほ場で被害が確認されている。	キクでは生長点付近、トマトでは果実等をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。
---------	-------	----	---	------	---	---

注）予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

2 発生が懸念される病害虫

リンゴ・モモ・ナシ等	■ナシヒメシンクイ 本種の第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底してください。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守してください。
ブドウ	■晩腐病 幼果期の防除終了後速やかにカサ掛けを行ってください。カサは雨もりを防ぐように丁寧に行いましょう。また袋かけ前の防除終了後は、速やかに袋掛けを行いましょう。
リンゴ等	■オオタバコガ 昨年、福島市のリンゴで本種による果実被害を確認しました。野菜・花きで発生が多く、フェロモントラップでの誘殺数が多くなっているため、今後の発生動向に注意してください。
夏秋トマト（被覆栽培）	■トマトキバガ 令和7年3月から、トマト及びミニトマトの周年栽培ハウス内でトマトキバガ幼虫による葉や果実の食害が発生しています。また、5月中旬以降夏秋栽培ほ場でも幼虫による葉や果実の被害が確認されています。 ほ場をよく観察し、被害の早期発見・防除に努めましょう。また、被害葉や被害果実は摘み取ってビニール袋等に入れて蒸し込みし、完全に死滅させてください。
	■トマト黄化葉巻病（TYLCV） 5月上旬定植の夏秋トマトほ場において、トマト黄化葉巻病の発生が確認されています。ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入を防止するため、ハウスの開口部に防虫ネット（0.4mm目合い）を設置しましょう。発生が確認されたら、コナジラミ類の防除を徹底してください。また、発病が疑われる株については、速やかに抜き取り処理を行ってください。 病害虫防除所ホームページでも情報を掲載しているため、下記のURLも参考にしてください。 【注意喚起～トマト黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策～】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf 【トマト黄化葉巻病（TYLCV）対策 チラシ】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf 【トマト黄化葉巻病（TYLCV）対策 パンフレット】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf
	■トマトすすかび病 例年よりもやや早く、県南地域の夏秋トマトほ場において、トマトすすかび病の発生が確認されています。 多湿条件により発生しやすくなるので、換気を行ってください。発生が見られた場合には、適切な薬剤を選択して防除しましょう。
	■ネギアブラムシ 浜通りの秋冬ネギほ場において、例年よりも多くネギアブラムシの発生が確認されています。多発すると株全体が覆われて黒くなります。また、ネギ萎縮病ウイルスを媒介するため、ほ場を観察し早期発見・防除に努めましょう。